**地震災害等対応マニュアル**

(対象事業所)

* 特別養護老人ホーム　シーサイドホーム桂浜
* 特別養護老人ホーム　つむぐ
* 介護付き有料老人ホーム　あったかホーム桂浜
* グループホーム　しあわせ村
* 短期入所生活介護事業所　桂浜
* 高知市長浜・御畳瀬・浦戸地域包括支援センター
* 通所介護事業所　桂浜
* 居宅介護支援事業所　桂浜

**【目的】**

2011年3月11日東日本に巨大な地震・津波が発生し東北地方を襲った。私たちが運営する事業所のある高知市長浜・浦戸地区にも非常に高い確率で、あと数十年(３０年余り)のうちに東日本で発生した地震・津波と同等若しくはより大きい地震・津波が起こると予測されている。

その他、太平洋に臨む建物の立地から、台風や竜巻等といった災害も忘れてはならないだろう。いざという時のために、社会福祉法人CIJ福祉会（以下「CIJ福祉会」という。）の各事業所は、地域等の事情を考慮の上で、ご利用者や職員一人ひとりが尊い命を守り、そして、事業が継続できることを目的として地震災害等対応マニュアルを作成する。



しあわせ村

つむぐ

シーサイドホーム桂浜

あったかホーム桂浜

 CIJ福祉会は、4つの建物及び8つの事業を行っている。地震・津波等の影響を受けるのは、このうち4つの建物であり、4つの建物に沿って地震災害等対応マニュアルを検討・制定していく。

1. **平常時における地震防災対策**

**（各施設の立地条件）**

**【シーサイドホーム桂浜】**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １ | 住所 | 高知市長浜６５９８番地４ |
| ２ | 敷地面積 | 2,622.79㎡ |
| ３ | 施設の構造 | 鉄筋コンクリート造地下1階、地上3階、塔屋1階建て |
| ４ | 地　　　　盤 | 砂質土 |
| ５ | 海　　　　抜 | ８．０ｍ |
| ６ | 地震予想 | 震度６強の地域であるが、近接地で震度７の表示があることから震度は最悪の震度７で検討する。 |
| ７ | 津波予想 | 高知県の津波浸水予測図では、１ｍから３ｍの範囲となっており、最悪を想定して３ｍで検討する。 |
| ８ | 津波到達時間 | 高知県の津波浸水予測時間図では、３０分～４０分になっており、到達時間は３０分で検討する。 |
| ９ | 液状化 | 液状化は少ないの地域になっているが、近接地は液状化が大(あったかホーム桂浜、しあわせ村)になっていることから、液状化は発生することを想定する。 |
| 10 | その他 | シーサイドホーム桂浜では、昼間1階で20人程度が生活しており、津波が予想されるときには避難スロープを利用して2階以上に避難する必要がある。 |

**【つむぐ】**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １ | 住所 | 高知市長浜６５９８番地４ |
| ２ | 敷地面積 | 3,459.22㎡ |
| ３ | 施設の構造 | 鉄筋コンクリート造、４階建て |
| ４ | 地　　　　盤 | 砂質土 |
| ５ | 海　　　　抜 | ７．５ｍ |
| ６ | 地震予想 | 震度６強の地域であるが、近接地で震度７の表示があることから震度は最悪の震度７で検討する。 |
| ７ | 津波予想 | 高知県の津波浸水予測図では、１ｍから３ｍの範囲となっており、最悪を想定して３ｍで検討する。 |
| ８ | 津波到達時間 | 高知県の津波浸水予測時間図では、３０分～４０分になっており、到達時間は３０分で検討する。 |
| ９ | 液状化 | 液状化は少ないの地域になっているが、近接地は液状化が大(あったかホーム桂浜、しあわせ村)になっていることから、液状化は発生することを想定する。 |
| 10 | その他 | つむぐの１階軒下の高さは4.0ｍであり、津波想定高の3ｍを上回っている。ご利用者は2階、3階で生活している。 |
| ２階研修室及び4階倉庫には、緊急避難物資を保管している。津波避難ビルに指定されている。 |

**【あったかホーム桂浜】**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １ | 住所 | 高知市長浜4444番地1 |
| ２ | 敷地面積 | 3339.09㎡ |
| ３ | 施設の構造 | 鉄筋コンクリート造、3階建て |
| ４ | 地　　　　盤 | 砂質土 |
| ５ | 海　　　　抜 | ９．０ｍ |
| ６ | 地震予想 | 震度６強の地域であるが、近接地で震度７の表示があることから震度は最悪の震度７で検討する。 |
| ７ | 津波予想 | 高知県の津波浸水予測図では、１ｍから３ｍの範囲となっており、最悪を想定して３ｍで検討する。 |
| ８ | 津波到達時間 | 高知県の津波浸水予測時間図では、３０分～４０分になっており、到達時間は３０分で検討する。 |
| ９ | 液状化 | 液状化は大(あったかホーム桂浜、しあわせ村)になっていることから、液状化は発生することを想定する。 |
| 10 | その他 | 1階に10人のご利用者が生活しており、津波が予想されるときには2階以上に緊急避難する必要がある。 |

**【しあわせ村】**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １ | 住所 | 高知市浦戸837番地30 |
| ２ | 敷地面積 | 1,568.36㎡ |
| ３ | 施設の構造 | 鉄筋コンクリート造、3階建て |
| ４ | 地　　　　盤 | 砂質土 |
| ５ | 海　　　　抜 | ９．０ｍ |
| ６ | 地震予想 | 震度６強の地域であるが、近接地で震度７の表示があることから震度は最悪の震度７で検討する。 |
| ７ | 津波予想 | 高知県の津波浸水予測図では、１ｍから３ｍの範囲となっており、最悪を想定して３ｍで検討する。 |
| ８ | 津波到達時間 | 高知県の津波浸水予測時間図では、３０分～４０分になっており、到達時間は３０分で検討する。 |
| ９ | 液状化 | 液状化は大(あったかホーム桂浜、しあわせ村)になっていることから、液状化は発生することを想定する。 |
| 10 | その他 | 2階、3階のユニット式。 |

**（１）4つの施設における具体的な被害想定**

ア　【ライフライン被害】

|  |  |
| --- | --- |
| 電力 | 最低でも2週間程度停電する。 |
| ＬＰガス | 配管が破損して使用不可となる。復旧の見込み60日以上。 |
| 上水道 | 30日間程度停止する。 |
| 下水関係 | 合併浄化槽が破損して使用できないおそれがある。 |
| 通信 | 災害時優先電話は使用可能だが、固定電話は１～2週間程度つながりにくくなる。メール機能は遅配するものの使用できる。 |
| 周辺道路等 | 一部の幹線道路は緊急輸送車両以外の通行が禁止され、被害の少ない地域から徐々に一般車両の通行が再開する。津波により１ｍ～３ｍは一時的に浸水するが、浸水時間は１時間程度と見込まれている。 |

※【高知県版】南海トラフ地震による被害想定(2012年12月)などから想定

地震の揺れ・津波浸水によりライフラインは壊滅的な被害が想定される。各施設のご利用者の生命と生活を守ることを最大限の目標にして対応を考えておく必要がある。

イ　【建物・設備被害】

|  |  |
| --- | --- |
| 建物 | ４つの施設の建物は鉄筋コンクリート造であり建物自体は｢健在｣であるが、天井の一部が落下したり、蛍光灯・窓ガラスが落下・飛散する被害が想定される。つむぐ以外の施設には地中のコンクリート杭が打設されていないので、地震及び液状化によって多少の浮き沈みが発生する可能性がある。 |
| 設備関連 | 固定していない設備・什器類が移動・転倒する。 |
| ＩＴ関連 | 固定していないパソコンやサーバーが転倒・損傷する。バックアップを取っていないパソコンデータが失われる。 |

**（２）南海トラフ地震により想定される業務継続上のリスク**

|  |  |
| --- | --- |
| リスク区分 | 内　　　容 |
| 人的 | 死傷者が発生する可能性(ご利用者、職員、職員家族)安否不明者が発生する可能性(外勤者、勤務時間外の職員)設備・什器等の移動、転倒や、天井の落下物、窓ガラスの破損等で一部のご利用者、職員が負傷する道路が使用できないことや交通機関の停止や職員及び家族の負傷により、一部の職員が出勤できなくなる空調機能の停止により、ご利用者の生活・生命の維持機能が低下する人員不足により業務の継続が困難となる |
| 物的 | 利用者が使用するオムツなどの消耗品、医薬品の調達が困難になる。食料、飲料、生活用品などの調達が困難になる。建物の一部損壊箇所の補修、復旧作業が必要になる。ライフラインの停止により、業務継続にあたり代替機能が必要な業務が発生する。(入浴サービス、食事等) |
| その他 | 通信機能の不通により、医療機関、公的機関、取引先との連携が困難となる。そのため、重傷者の治療ができず、また、医薬品、食料、生活物資が不足する。トイレの使用不可、下水道の停止により衛生状態が悪化する。ゴミ、廃棄物の収集ができなくなる。事業が停止した場合、収益が減少する。建物・設備等の被災により、高額の修繕費用が発生する。 |

**２　施設(ハード面)の地震防災対策**

**○ハード面：落下物、家具の転倒防止対策、窓ガラスの飛散防止対策の検討等**

**（１）屋内対策**

　　ア　備品等の対策

1. 机、ロッカー、たんす、書棚、戸棚、冷蔵庫、食器棚及びテレビなどの電化製品等は家具転倒防止器具等でしっかり固定し、転倒や移動を防止する。

※居室、デイルーム、共同生活室などの施設利用者や職員が多く利用する場所は、ガラスや割れ物を置かないなど、特に注意することが必要。また食器の散乱を防止する。

1. 書棚や戸棚は棚板の前面を高くするなど落下防止を行う。
2. ロッカー、たんす等の上においている備品等は除去、固定を行う。
3. 書棚等の開き戸は振動により開いて収納物が落ちないように、扉の開放防止を行う。
4. 厨房機器及び大型設備の固定。

　　イ　天井からの落下物対策

1. 照明器具や吸音材、壁掛け時計等の取り付け状態を点検し、補強等を行い、落下物防止を行う。

　　ウ　窓ガラス等対策

1. 窓ガラスや書棚等については、ガラスが割れて飛散しないようにガラス飛散防止フィルムで補強する。窓ガラスのガラス飛散フィルムの補強は、シーサイド、つむぐ、あったか、しあわせ村のすべてで完了している。
2. 窓ガラス付近にロッカー、タンス、植木鉢を置かない。

　　エ　安全スペースの確保

1. 可能ならば建物内の一室に什器などを一切おかず、ご利用者が集まれる｢安全スペース｣を確保する。手すりが設置されている広い廊下も安全スペースとして有効である。

　　オ　情報通信器の適正な管理

1. 情報源となるテレビのほか、電話、ＦＡＸ、パソコンなど通信機器は水害から守るため、主要機器は上階に配置する。

　　カ　防火対策

1. 火を用いる器具やガスなど可燃性危険物等の適正な管理と地震発生時の消化における体制をとる。

**（２）屋外対策**

　　ア　倒壊危険物の対策

1. 看板、物置、避難階段、避難スロープなどの倒壊若しくは傾く可能性があるものについては点検を行い、危険なものは補強を行う。
2. 自動販売機の転倒防止を行う。

　　イ　避難経路の確認

1. 建物内の安全なスペース、消火器の位置、地震時に開放する出口位置、避難経路などについて建物平面図をもとに記載し、廊下など誰もが確認できる場所に張り出す。
2. ご利用者ごとに避難するための方法(車椅子、ストレッチャーなど)を色分けするなど、職員が認識できるようにする。
3. シーサイドからつむぐに避難する場合には両施設をつなぐ避難通路が液状化の影響でずれている可能性があるので、避難にあたっては常に留意するように職員に徹底する。

　　ウ　避難場所の確認

　　　各施設の避難場所は以下のとおりとする。

1. シーサイド　⇒第一には1階のご利用者を2階に避難させる。第二には、つむぐへの避難が可能であればつむぐの2階に避難する。第三につむぐへの避難ができないときには、一時的には3階屋上スペースに避難する。津波の状況を確認して100％の安全が確認できたら２階フロアまで降りて、待機する。
2. つむぐ　　　⇒つむぐの２階フロア以上は津波浸水高に入っていないので、２階以上で避難・待機する。
3. あったか　　⇒第一には1階のご利用者を2階に避難させる。第二には、１階フロアの全員の避難が完了したら、一時的には全員を3階フロアに避難し、待機する。
4. しあわせ村　⇒第一には、一時的には全員を3階フロアに避難し、待機する。
5. 津波が収まったあと、施設外避難場所への避難も考えられるところであるが、津波避難タワーや山の上であったり、春野運動公園と遠方であったりするので、介護の必要な高齢者にとっては厳しい環境であることから、それぞれの建物で待機して救援を待つこととする。その後の対応は、行政機関と協議のうえ決定する。
6. その後、既存施設では、食料、水、薬、オムツなどの生活物資に不安があるので、行政の指導に基づいて新たな避難場所に移動する。

**３　施設面(ソフト面)の地震防災対策**

**○ソフト面：必需品の備蓄、情報収集及び連絡体制の整備、避難経路・避難場所の確認、防災訓練の実施等**

　ア　飲料水の備蓄

　　　一人１日３リットルを目安に2週間分を施設で備蓄する。各施設のご利用者(デイ、ショート含む)の数を勘案して備蓄する。

　　　自動販売機については緊急時には利用ができるように協定を締結する。

　イ　生活用水の備蓄

　　　賞味期限切れの飲料水をつむぐ１階倉庫に備蓄する。

　ウ　非常用食料の備蓄

　　　ご利用者の特性に合わせた非常用食料の備蓄、ご利用者、職員、地域住民の2週間分を各施設の防災倉庫で備蓄する。

　　　備蓄内容は別に定める「非常用食料の備蓄一覧表」のとおり。

　　　なお、防災訓練時には、炊き出しにて非常食を試食し、非常食の内容や炊き出し時間、又は炊き出しに使う木片等の使用量等を確認する。

　　　食料、飲料水は、賞味期限があり、2週間を目標にローリングストックを行う。

　エ　衛生用品の備蓄

　　　断水や停電により、洗濯や入浴ができない、水洗トイレが使用できない等、衛生面で様々な問題が発生する。このため、紙おむつやウェットティッシュ、ナプキン等の衛生用品やポータブル便器、簡易トイレ、また、尿を固める「ウリナーキャッチ」等の物品を備蓄しておく。

　　　紙おむつは、シーサイドホーム桂浜及びつむぐでは2週間分を保管して、1週間分を毎年入れ替えており、ローリングストックしている。あったかホーム桂浜及びしあわせ村は、おむつは自己負担での準備であり、数日分をストックしている。

　オ　医薬品の確保

　　　入所施設のご利用者の中には、常時投薬が必要な慢性疾患を有している人が多くいる。特に、投薬が途切れると生命にかかわり、症状のコントロールができないと見込まれる場合には、施設において常に３日分の医薬品を確保しておくように心がける。

　　　また、緊急時にはどこにいても即座に投薬が継続されるように、ご利用者各人の投薬に関しての情報を施設、ご利用者、ご利用者家族で共有し保管しておく。施設外に避難する際には、ご利用者のケース記録、カルテの写し、お薬手帳、処方箋、個人情報カードとともに施設職員が携帯する。(個人カードは職員用も準備して活用する。)

　カ　エネルギー源の確保

　　　停電時に備えたガスボンベ式の発電機(シーサイド)を活用する。簡易版の太陽光発電機器、投光機やコードリール、炊き出しに使うバーベキューコンロ、簡易ガスボンベ、七輪、木炭なども防災倉庫で保管する。

　　　シーサイドホーム桂浜、つむぐ及びしあわせ村では、太陽光発電設備を設置している。うち、シーサイドホーム桂浜及びつむぐには蓄電池を設置しており、限定的ではあるが、照明、ナースコールなどについては、夜間も含めて利用ができる。

**４　南海地震臨時情報が発令されたときの対応（南海トラフ地震防災規程より抜粋）**

　**【災害応急対策をとるべき期間等】**

（南海トラフ地震臨時情報**（巨大地震警戒）**が発表された場合）

南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界におけるM8.0以上の地震の発生から１週間、後発地震に対して警戒する措置をとるものとする。また、当該期間経過後１週間、後発地震に対して注意する措置をとるものとする。（最低でも2週間）

（南海トラフ地震臨時情報**（巨大地震注意）**が発表された場合）

南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上M8.0未満又はプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側50㎞程度までの範囲でM7.0以上の地震（ただし、太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く）が発生するケースの場合は１週間、南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界面で通常と異なるゆっくりすべりが観測されたケースの場合はプレート境界面で通常と異なるゆっくりすべりの変化が収まってから、変化していた期間と概ね同程度の期間が経過するまでの期間、後発地震に対して注意する措置をとるものとする。

（南海トラフ地震臨時情報（調査終了）が発表された場合）

地震災害対策本部は、本部長の指示に基づき、防災に関する業務を終了する。

**【地震災害対策本部の対応】**

（本部長等の業務）

南海トラフ地震臨時情報（調査中）、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）及び南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された場合は、次の措置を講ずるものとする。

　 １）　情報連絡班に南海トラフ地震臨時情報（調査中）、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）及び南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）に関する情報の収集にあたらせること。

　 ２）　南海トラフ地震臨時情報（調査中）、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）及び南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されたことを各班長に伝達するとともに、当該施設内にその旨及び必要な措置について周知すること。

　 ３）　大津波警報、津波警報又は津波注意報（以下、大津波警報等という）が解除され、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表されている場合、避難・誘導班に大津波警報等により施設内に退避した周辺住民等（以下、退避後の周辺住民等という）に対する避難誘導にあたらせること。

４）　前号に掲げるほか、後発の地震による被害の発生防止又は軽減を図るために必要な措置を行わせること。

５）　南海トラフ地震臨時情報（調査終了）が発表された場合、建物内の状況等から防災に関する業務の終了が適当と判断したときは、地震災害対策本部へ防災に関する業務の終了を指示する。

**４－２　地震発生時の初動体制**

**（１）参集計画**

　　　○昼間に地震が発生した場合

・日常の組織から事前に決めておいた対策本部制に移行し行動する。

・外出中の職員は、戻り次第本部長の指示を受け行動する。

・外出先から施設に戻れない場合、事前に定められた連絡方法により状況を報告し、｢施設に戻る｣、「自宅に帰る」、「周辺被災者の救護活動にあたる」などの自己判断をする。

　　　○休日、夜間等に地震が発生した場合

　　　　・参集ルールに従って参集し、事前に決めておいた対策本部体制に移行する。(ただし、参集予定者は安全を最優先し判断する。なお、計画どおり参集することは難しいと予測されるので、参集した人員により適宜対応する。)

**(参集ルール)**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 行動基準 | 判断 | 参集人員 | 連絡体制 |
| 施設付近で震度4を記録 | 待機 | 業務執行理事(本部長)の判断により参集を要する職員に連絡を入れる | 非常時の緊急連絡先一覧表 |
| 施設付近で震度5強を記録 | 警戒参集 | 各施設長対策本部各班責任者夜間参集可能職員 | 非常時の緊急連絡先一覧表可能であれば伝言ダイヤル等で施設への到着時間を連絡する(全員)自宅、家族が被災等参集できないときも連絡を入れる |
| 施設付近で震度6以上を記録 | 非常参集 | 連絡なくとも全職員参集 |

**(災害時の対策本部体制)**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 体　制 | 役　割 | リーダー　　　　サブリーダー |
| 本部長 | 全体の統括、指揮調整 | 業務執行理事 | 各施設長、管理者 |
| 情報連絡班(入所)(在宅) | 地震・津波情報の入手被害(被災)状況の把握 | 生活相談員居宅管理者 | ケアマネデイ職員ショート職員 |
| 救護・看護班 | 負傷者の応急救護ご利用者の看護等 | 副施設長、看護主任、副主任 | 看護師 |
| 避難・誘導班(入所)(在宅) | ご利用者の避難誘導初期消火 | 介護主任、副主任在宅課長 | ユニットリーダー、介護職員 |
| 総務班 | 資機材調達各種必需品管理地域住民の避難受け入れ | 事務長事務主任 | 事務員栄養士(厨房職員) |

**(災害対策本部　役割分担)**

|  |  |
| --- | --- |
| **本　部**本部長（業務執行理事）副本部長、各施設長、管理者 | ・防災業務の適切な実施を図るため、災害応急対策を遂行する・災害応急対策について指揮を行う(本部長不在時は、副本部長が指揮を執る) |
|  | **情報連絡班** | ・市町村災害対策本部、消防署、警察署などと連絡を取り、情報を入手のうえ本部長に報告する・各班に情報提供・家族に状況を連絡・マスコミの取材対応と情報提供※非常時の緊急連絡先一覧表を参照 |
| **救護・看護班** | ・負傷者の救出及び安全な場所への移動・応急手当及び病院などへの移送・搬送※非常時の緊急連絡先一覧表を参照 |
| **避難・誘導班** | ・入所者の安全確認、入所者に情報を提供・施設設備の損壊状況の調査、写真撮影、報告、応急処置(写真撮影は保険請求に必要)・本部長の指示に基づきご利用者の避難・家族等への引渡し・火元の点検、ガス漏れの有無を確認・発火の防止と発火の際の初期消火 |
| **総務班** | ・津波避難ビルの避難者の受け入れ・福祉避難所の避難者の受け入れ・ボランティア受け入れ体制の整備・食料、飲料水、トイレ、衛生用品などの確保・炊き出し、飲料水の確保 |

ア　【初動体制】

○震度5強以上の地震が発生した時は昼夜休日ともに本部長の判断にかかわらず、以下のとおり初動対応を行う。(津波警報が出た場合)

①　(発生直前)【全館に周知：全館放送で行う】

スマホ、テレビ等で緊急地震速報があれば、総務班(夜間であれば宿直職員)職員が身の安全を守りながら｢強い地震が発生します。強い揺れに注意してください｣と全館放送を行う。

1. (発生時)

職員は頭部を守り、揺れが収まるまで待つ。待っている間に可能な限り大きな声でご利用者に｢地震が発生しました。布団をかぶって頭を守ってください。何でもかまいませんのでつかまってください。｣などの声をかける。

大きな揺れを感じたら周囲に大きな声で注意を促し、机の下に隠れ座布団を用いて頭を守り、自身の身を守る。また、二次被害を防止するために、ヘルメットや防災頭巾を着用する。

**各施設の対応は、「地震発生時の各事業所別の災害対応**」(昼間の場合：夜間の場合)を参照する

1. (発生直後)

揺れが収まれば、次の強い揺れに注意しながらご利用者、職員の安全確認、津波避難ビルへの誘導、福祉避難所への避難誘導、建物の損壊状況、火災の有無の確認を同時に行い、状況を災害対策本部(以下｢対策本部｣という。)に報告し館内の情報を共有、対策本部の指示に従う。

**各施設の対応は、「地震発生時の各事業所別の災害対応」**(昼間の場合：夜間の場合)を参照する

1. (建物の損壊が激しい場合及び１メートル以上の大津波が想定される場合)

１階にいるご利用者及び職員は施設内の保安要員１名を除くすべての職員によって２階以上に移動させる。つむぐ以外の施設は、さらに時間があれば３階に移動させる。

シーサイドのご利用者及び職員はつむぐへの連絡通路の安全が確保されていることを確認できたらつむぐ２階に移動・避難する。連絡通路が破損している場合には３階屋上に避難させる。

シーサイドは津波が収まり安全が確認できたら２階に移動する。他の３施設はそのまま救助を待つ。

(送迎、研修等の外出時)

送迎、研修等で施設外にいる職員は周囲の安全確認、ご利用者の避難を周囲の方と協力して行い安全な場所で待機する。電話やメール、伝言ダイヤル等を利用して状況を速やかに上司、対策本部に連絡し指示に従う。

1. (勤務外の職員)

勤務外の職員は自身の安全確保、周囲の安全確保、事業所付近の安全確認ができれば事業所に参集する。安否確認や参集の可否については電話やメール、伝言ダイヤル等で連絡する。

**（２）施設利用者の対応・安否確認方法**

　　　通所施設の場合はもちろんのこと、入所施設においてもご利用者が外出・外泊している場合もあるので、地震発生時に施設ご利用者が施設外にいるときの安否をどのような方法で確認するのか、ご利用者やご家族と事前に話し合い合意形成を図っておく。

ア　通所介護・短期入所生活介護事業サービス送迎時対応

　　（送迎時、地震災害に直面した場合の対応）

|  |
| --- |
| 1. 地震発生直後には、車両を停止させる。周辺を確認し、安全であるのか状況を確認する。

(乗車中のご利用者がいれば、ご利用者の安全確認を行う)1. 地震の揺れが落ち着けば、車両(ご利用者)を安全な場所に移動する。最悪、車両は放棄してご利用者を第一に守る。車両には鍵をつけて避難する。

※津波の危険性があれば、最寄りの高台に避難する1. 車両(ご利用者)の安全が確保できれば、施設、家族、担当ケアマネに連絡を取る。

・電話又はメールで施設及び上司に連絡・災害伝言ダイヤルを活用する・事前に担当部署で連絡の方法を確認し、話し合っておく1. 事業所、ご家族等に連絡が取れれば協議のうえ、安全を確認しながら施設若しくは自宅(ご家族のもと)に移動する

このとき津波が完全に収まったことを事業所等において確認するなど、安全を最優先にして判断する(負傷者がいる場合には、安全を最優先し病院に搬送できるように努める。) |

**（３）情報収集と連絡体制の整備**

　　　災害時においては、電話・ＦＡＸの回線遮断により使用できない可能性が高いことから、メール等（LINE含む）にて職員の安否を確認する。また、停電により情報が得られない場合でもラジオ、スマホ等を活用する

　　　加入電話や携帯電話は設備に被害がなくても発信規制され通じなくなるといわれている。なお、携帯電話でのメールは受信の遅延が見られるものの比較的通じることがあるようであり、メールにおいて情報の交換を活用する。

　　　それ以外にも、災害発生時にＮＴＴが開設する「１７１」や各携帯電話会社の災害用伝言ダイヤルの活用も有効である。

|  |
| --- |
| ※災害発生時にＮＴＴが開設する災害伝言ダイヤル「１７１」の使い方**(伝言の録音方法)**１　｢171｣にダイヤルする。２　｢１｣をダイヤルする。３　シーサイドであれば０８８－８４１－５０００をダイヤルし、ガイダンスに従い録音をする。**(伝言の再生)**１　「１７１」にダイヤルする。２　「２」をダイヤルする。３　安否情報などを確認したい相手の電話番号をダイヤルする。０８８－８４１－５０００ |

**（４）法人間の指揮命令系統・情報連絡体制**

　　　施設長は、法人内各施設長と情報共有を行う。また、本部長（業務執行理事）へ報告を行う。本部長は、理事長へ報告を行い、各事業所は指示に従う。

ア　共有内容

　　・ご利用者、職員の被害・避難状況(安否確認を含む)

・建物、近隣損壊状況等

　　・被害状況、対応

　　・運営状況

　　・応援協力体制の必要判断

**５　地震発生時の避難行動計画**

ア　建物の損壊がない、又は損壊が軽度の場合

　　地震発生時は、施設内の破損状況を確認し、生活するうえで特に問題がないのなら施設内２階以上で待機をする。

イ　建物の損壊状況が激しい場合

　　施設の損壊状況が激しい場合であっても第一には津波から避難をするためにできるだけ高い場所に移動する。つむぐ以外の施設においては３階以上に移動する。

　　津波が完全に収まったとしても道路の寸断等で、すぐに他の場所への避難ができない場合もあるので、理事長、本部長及び行政担当者からの指示を受けて移動については判断する。

**６　地震等により負傷した方への対応**

ア　怪我をしたご利用者や職員の応急処置・移送

**(看護師在勤時の対応)**

　　報告と指示に従う。また、病院への移送が可能か確認する。

**(看護師不在時の対応)**

　　不在時、連絡不通の場合は介護の職員ができるだけの処置を行う。

　　看護師が不在のときは経管栄養や胃ろう等の行為ができない。

内服薬、医療保険証のある場所を介護の職員も確認しておく

イ　死亡者への対応

　　・万一、お亡くなりになった方がいた場合には、死後の処置(清拭・更衣等)を行う。

　　・他者に見えない場所を霊安所とし遺体を安置する。

　　・災害時、ご家族と連絡が取れない場合には以下のように火葬の手配を行う。

　　　施設内で死亡した場合：施設長が火葬届出人となる

　　　施設外で警察により死亡が確認された場合：警察署長が火葬届出人となるように手

配を行う。

病院へ救急搬送され死亡が確認された場合：医師が火葬届出人となるように手配する。

ウ　その他

　　近隣の医療機関が機能しておらず、治療の必要性が見込まれるご利用者等がいる場合には、本部長等に相談のうえ、高知県災害医療対策本部（県医療本部）に要請して搬送するのか検討する。南海トラフ大地震の際には県内で重症患者が多く見込まれており搬送までに時間を要することが考えられるので、応急処置を行うことも想定した準備をしておく。

**７　台風等の災害についての対応**

1. **事前に想定ができる場合**

**(台風、大雨、風雪等)**

　ア　本部長より災害対策本部の発令

　　　参加者：本部長、施設長、課長、主任、副主任

　　　(各施設で行う場合がある)

　　　検討内容：職員の勤務者の確保、安全要員の宿泊勤務の是非

　　　施設内の災害対策準備、緊急時連絡網の周知、避難場所受け入れ体制の確認等

　イ　災害発生時

　　　検討会での検討事項以外の想定外への対応は、｢安全確保｣を最優先として判断する

　ウ　緊急時連絡網

　　　「災害・緊急時連絡系統表」をもとに連絡を行う

　　　当日の勤務者は、本部長及び各施設長、管理者に連絡して指示を仰ぐ

　エ　指示命令系統

　　　本部長及び施設長、管理者のもとで判断する。

　　　デイ、ショートの各事業については、ご利用者、職員の安全確保を最優先して判断す　　　る

　オ　災害対策本部で検討する事項

　　・天候状況の時系列での把握、天気予報等の情報を各部署に随時連絡

　　・各施設、部署の勤務者の状況の把握、変則勤務者の出勤時間等の検討

　　・台風・風雪等の時間帯の把握及び出勤時間等の変更を検討

　　・各施設及び施設長との連絡体制の確認、緊急時等の連絡体制の確認

　　・施設長から緊急時参集方法の確認

　　・施設管理についての検討及び施設内外の防災対策方法の確認と準備

　　・出勤不能時の対応の確認、災害終息後の報告体制

　　・人的・物的な被害状況の報告及び集約

　　・報告内容は、①ご利用者の状況、②職員の状況、③建物等の状況など

1. **台風の襲来等、予測できる災害に対しての各施設の事前対策**

**(デイサービス)**

**ア　午前に台風襲来及び暴風警報等の発令によりサービス提供が困難と予測される場合**

|  |  |
| --- | --- |
| 　　 | 対応方法 |
| 前日対応又は前々日対応 | 当日(明日)のご利用者又はご家族に対して事情を説明し、当日の天気次第により、送迎時間等が希望に添えない可能性やサービス提供の有無を連絡することを伝える。 |
| 当日対応 | ・サービス困難と予測される場合　ご利用者にサービス提供中止を連絡する。ただし、ご家族や住居の状況・環境等により、サービス提供を行うほうが安全と考えられる場合は、居宅介護支援事業所と協議のうえ、送迎時の安全配慮等を行い、サービス提供を行う。・サービス困難と予測しにくい場合　サービスを提供することを連絡する。なお、ご利用者の安全確保のため、通常より早い時間帯での送迎になるかもしれないことを伝える。・サービス困難と予測しない場合　ご利用者に連絡し、通常どおりサービスを提供することを伝える |

**イ　午後に台風襲来及び暴風警報等の発令によりサービス提供が困難と予測される場合**

|  |  |
| --- | --- |
| 　　 | 対応方法 |
| 前日対応 | 当日(明日)の台風状況により、午後早い送り、あるいは午後のサービス提供は中止になる可能性があることをご利用者及びご家族に対して伝える。 |
| 当日対応 | 基本的には、サービス提供を実施する。ただし、迎え時の状況次第では、午後の利用が短くなるかもしれないことをご利用者又はご家族に伝える。・サービス困難と予測される場合　ご利用者の安全確保を考え、支障があるか否かを判断し、送りの時間等を決定し、ご家族等に連絡・連携を図る。ただし、ご家族や居住状態・環境等によりサービス提供を行うほうが安全と考えられる場合は、居宅介護支援事業所と協議のうえ、送迎時の安全配慮等を行い、サービス提供を行う。・サービス困難と予測しない場合　通常どおりの対応を行う |

**(短期入所)**

|  |  |
| --- | --- |
|  | 対応方法 |
| 前日対応又は前々日 | 当日(明日)の台風情報により、送迎状況が困難な場合、事前に居宅介護支援事業所、ご家族と協議のうえ、1. (台風)当日に入所の場合は前日もしくは前々日より利用開始、又は台風通過後より利用開始を検討していただく。
2. (台風)当日に退所の場合は前日に退所もしくは台風通過後まで利用延長させていただき、安全の確保をする。
3. ①、②の場合、不足分の服薬等必要な物品は(台風)前日までに速やかに自宅にお伺いし預らしていただくとともにご利用者の状態を報告する。
4. また、台風当日になるべく入退所を減らし、災害の危険を回避する。
 |
| 当日対応 | 当日のサービス計画を全体的に見直し、日常生活に支障があると考えられる方を優先し、家族と居宅介護支援事業所と協議のうえ、利用日数の変更やサービス変更等を行う。また、生活環境や居住環境により、施設待機が安全と考えられるご利用者については、検討のうえ、それぞれのサービス提供を実施する。家族送迎にて、(台風)当日入退所されるご利用者に対しては、送迎時間帯を家族と密に連絡を取り合い、｢台風が接近しているので気をつけていただくこと｣や「困っていることがあれば連絡していただいたらよいこと」などを伝え、安全の確保に努める。 |

**(居宅介護支援事業所)**

|  |  |
| --- | --- |
|  | 対応方法 |
| 前日対応 | 各サービス提供事業者にサービス実施の有無を確認する。特に通所サービス等が中止になることで、食事(昼食など)の確保が困難なご利用者については、代替サービス(配食サービス)等の利用を促し、事業者と調整を図っておく。 |
| 当日対応 | 各サービス提供事業者より臨時休業等の連絡を受けた場合、代替サービス等を検討・調整・依頼等を行う。 |
| 安否確認 | 即時の訪問が必要と認められない独居のご利用者に対し、安否確認を電話で行い、「台風が接近しているので気をつけていただくこと」や「困っていることがあれば連絡していただいたらよい｣等を伝える |

**８　洪水、暴風雨時の対応**

　　暴風雨による洪水は、各施設ともに想定はしていない。

　　ただし、大型台風などの襲来でガラスの破損など建物の一部が損傷を受けることが想定される。こうした場合には、損傷を受けた箇所からできるだけ遠くの室内に移動して、台風が通過するのを待つ。

　　台風通過後、損傷している箇所を調査し、ご利用者、職員の安全に配慮した修復を至急に行う。

**９　地域社会との連携づくり**

　　地震、台風などの自然災害時には、地域の皆さんとの連携が必要です。地域の皆さんが避難してきた場合には可能な限り受け入れることとします。

　　また、一方、施設内において避難されてきた方やご利用者に対して人手が足りない場合などには、地域の皆さんのボランティアに協力を求めることとします。

　　・平成23年10月19日　災害時要援護者の避難生活支援に関する協定書

　　　　　　　　　　　　　　(高知市：シーサイド)福祉避難所

・平成27年11月9日　津波発生時における緊急避難場所としての施設の使用等に関する協定書(高知市長：つむぐ) 津波避難ビル

　　・平成27年11月26日　災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定書

　　　　　　　　　　　　　　(高知市長：つむぐ)福祉避難所

　　・令和4年8月4日　　　災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定書

　　　　　　 （高知市長:しあわせ村）福祉避難所

　　あったかは福祉避難所等の協定はありませんが、地域の皆さんの避難場所として提供することは社会福祉法人としての責務であると考えています。

地震発生時の各事業所別の災害対応

**(昼間の場合)**

○**シーサイドホーム桂浜**の災害対応

(短期入所生活介護事業所桂浜、高知市長浜・御畳瀬・浦戸地域包括支援センターを含む)

震度５強以上

震度4～5弱の場合

**地震発生**

軽微な揺れを感じ、ライフラインに影響がない場合

強い揺れを感じてライフラインが

停止した場合

異常がないか安全確認

1. 職員は頭部を守り、揺れが収まるまで待つ。
2. 待っている間に可能な限り大きな声でご利用者に｢地震が発生しました。布団をかぶって頭を守ってください。何でもかまいませんのでつかまってください。｣などの声をかける。
3. 揺れが収まったあと、津波は早ければ30分後には到達する。
4. １階のご利用者を避難させる時間は20～25分間程度と見込まれる。
5. よって、地震によって２階のご利用者が車椅子ごと転倒したり、ベットから落下している場合でもそのままにしておき２階に勤務する職員は、１名の保安要員を除いて、全員が１階のご利用者の避難に駆けつける。
6. ２階の保安要員の１名は、ご利用者を見回り、出血をしているご利用者にタオルを当てるなどの対応を行う。

１階では、揺れが収まり次第、

1. ご利用者の安全確認
2. 車椅子の転倒、椅子から落下したご利用者の保護を行い、全員を車椅子に乗せる。
3. 頭巾、ヘルメットの装着、頭巾、ヘルメットがない場合には、毛布などを頭にかけるなどの安全確保。
4. 落下物の撤去など避難の導線を確認。スロープの安全確認。
5. 避難開始。20～25分程度の時間での避難が必要。
6. 避難場所は、避難スロープを使用してとりあえず２階とする。

事務職員は、　①ブレーカーを落とす。　②１階の避難の応援にはいる

厨房職員は、ガスの火を消し、ガスの元栓を確認する。

1. １階のご利用者全員が２階のフロアに避難が完了したことを確認する。
2. １階のトイレ、風呂場、エレベーター等の確認。
3. その後、全職員で２階の利用者の保護を行う。車椅子の転倒、ベットから落下したご利用者の保護を行い、全員を車椅子に乗せる。頭巾、ヘルメットの装着、頭巾、ヘルメットがない場合には、毛布などを頭にかけるなどの安全確保。
4. ご利用者の人数及び身体状況の確認
5. 「つむぐ」との連絡通路の安全を確認して、つむぐ２階に避難を開始する。
6. 避難場所において出血しているご利用者に応急処置を行う。その他骨折等けがをしているものの確認・応急処置を行う。
7. 「つむぐ」への避難ができないときには、３階屋上に全員を避難させ、津波の様子を見る。
8. 緊急連絡網を通じて、職員の安否確認を行う。
9. ご利用者の家族と可能な限り連絡を取る。
10. 福祉避難所になっており、高齢者、障害者等の避難者を受け入れる。

避難場所等は上記と同じ。

1. 津波が完全に収まったことを確認のうえ、食料、寝具、薬、紙おむつ、トイレ用品、衣類などの当面、必要な物資を確認する。

地震発生時の各事業所別の災害対応

**(夜間の場合)**

○**シーサイドホーム桂浜**の災害対応

(短期入所生活介護事業所桂浜、高知市長浜・御畳瀬・浦戸地域包括支援センターを含む)

震度５強以上

震度4～5弱の場合

**地震発生**

軽微な揺れを感じ、ライフラインに影響がない場合

強い揺れを感じてライフラインが

停止した場合

異常がないか安全確認

1. 職員は頭部を守り、揺れが収まるまで待つ。
2. 待っている間に可能な限り大きな声でご利用者に｢地震が発生しました。布団をかぶって頭を守ってください。何でもかまいませんのでつかまってください。｣などの声をかける。
3. 揺れが収まったあと、津波は早ければ30分後には到達するといわれている。
4. 車椅子の転倒、ベットから落下したご利用者の保護を行い、全員を車椅子に乗せる。頭巾、ヘルメットの装着、頭巾、ヘルメットがない場合には、毛布などを頭にかけるなどの安全確保。
5. 出血しているご利用者を確認してタオル等で押さえる。
6. ご利用者の人数及び身体状況確認。

夜間宿直の職員は、

1. ブレーカーを落とす。
2. ガスの元栓が締まっていることを確認する
3. ２階の避難の応援にはいる
4. 「つむぐ」との連絡通路の安全を確認して、つむぐ２階に避難を開始する。
5. 避難場所において出血しているご利用者に応急処置を行う。その他骨折等けがをしているものの確認・応急処置を行う。
6. 「つむぐ」への避難ができないときには、３階屋上に全員を避難させ、津波の様子を見る。
7. 緊急連絡網を通じて、上司への連絡及び職員の安否確認を行う。
8. ご利用者の家族と可能な限り連絡を取る。
9. 福祉避難所になっており、高齢者、障害者等の避難者を受け入れる。

避難場所等は上記と同じ。

1. 津波が完全に収まったことを確認のうえ、食料、寝具、薬、紙おむつ、トイレ用品、衣類などの当面、必要な物資を確認する。
2. 津波が完全に収まったことを確認後、応援に出勤できる職員を、緊急連絡網を通じて連絡・確認する。
3. 施設直近の職員は最優先に応援にはいる。

地震発生時の各事業所別の災害対応

**(昼間の場合)**

○**つむぐ**の災害対応

震度５強以上

震度4～5弱の場合

**地震発生**

軽微な揺れを感じ、ライフラインに影響がない場合

強い揺れを感じてライフラインが

停止した場合

異常がないか安全確認

1. 職員は頭部を守り、揺れが収まるまで待つ。
2. 待っている間に可能な限り大きな声でご利用者に｢地震が発生しました。布団をかぶって頭を守ってください。何でもかまいませんのでつかまってください。｣などの声をかける。
3. 揺れが収まったあと、津波は早ければ30分後には到達する。
4. つむぐの2階、3階は津波浸水区域である地盤からの高さ３ｍを上回っており、特に避難を行う必要性はない。
5. 火災等の心配があることから、ブレーカーを落とす。
6. 車椅子の転倒、ベットから落下したご利用者の保護を行い、全員を車椅子に乗せる。頭巾、ヘルメットの装着、頭巾、ヘルメットがない場合には、毛布などを頭にかけるなどの安全確保。
7. 出血等しているご利用者を確認して治療等を行う。
8. ご利用者の人数及び身体状況確認。

揺れが収まり次第、

1. 津波避難ビル及び福祉避難所になっていることから、周辺の住民、高齢者、障がい者などが避難してくることから、２階及び４階の交流スペースのガラス戸の開錠を行う。
2. 職員のうち１名は、外部からの避難者に対する対応を行う。
3. この職員は、避難者が２階及び３階のご利用者の居住スペースに入ることがないように留意する。
4. 本部長の指示によって、避難者が安心して避難生活ができるように対応する。
5. シーサイドからつむぐ２階に避難を行う予定であり、２階交流スペースの開錠を行うとともに、ご利用者の受け入れを行う。
6. シーサイド職員は、避難場所において出血しているご利用者に応急処置を行う。その他骨折等けがをしているものの確認・応急処置を行う。シーサイド、つむぐの職員が協力して運営を行う。
7. シーサイドとつむぐとの連絡通路が、地震により損壊している場合には、シーサイドからの避難者は、いったん３階に避難することになる。
8. 緊急連絡網を通じて、職員の安否確認を行う。
9. ご利用者の家族と可能な限り連絡を取る。
10. 食料、寝具、薬、紙おむつ、トイレ用品、衣類などの当面、必要な物資を確認する。

地震発生時の各事業所別の災害対応

**(夜間の場合)**

○**つむぐ**の災害対応

震度５強以上

震度4～5弱の場合

**地震発生**

軽微な揺れを感じ、ライフラインに影響がない場合

強い揺れを感じてライフラインが

停止した場合

異常がないか安全確認

1. 職員は頭部を守り、揺れが収まるまで待つ。
2. 待っている間に可能な限り大きな声でご利用者に｢地震が発生しました。布団をかぶって頭を守ってください。何でもかまいませんのでつかまってください。｣などの声をかける。
3. 揺れが収まったあと、津波は早ければ30分後には到達するといわれている。
4. つむぐの2階、3階は津波浸水区域である地盤からの高さ３ｍを上回っており、特に避難を行う必要性はない。
5. 車椅子の転倒、ベットから落下したご利用者の保護を行い、全員を車椅子に乗せる。頭巾、ヘルメットの装着、頭巾、ヘルメットがない場合には、毛布などを頭にかけるなどの安全確保。
6. 出血等しているご利用者を確認して治療等を行う。
7. ご利用者の人数及び身体状況確認。

揺れが収まり次第、

1. 津波避難ビル及び福祉避難所になっていることから、周辺の住民、高齢者、障がい者などが避難してくることから、２階及び４階の交流スペースのガラス戸の開錠を行う。
2. 職員は、避難者が２階及び３階のご利用者の居住スペースに入ることがないように留意する。
3. 本部長の指示によって、避難者が安心して避難生活ができるように対応する。
4. シーサイドからつむぐ２階に避難を行う予定であり、２階交流スペースの開錠を行うとともに、ご利用者の受け入れを行う。
5. シーサイド職員は、避難場所において出血しているご利用者に応急処置を行う。その他骨折等けがをしているものの確認・応急処置を行う。
6. シーサイドとつむぐとの連絡通路が、地震により損壊している場合には、シーサイドからの避難者は、いったん３階に避難することになる
7. 緊急連絡網を通じて、職員の安否確認を行う。
8. ご利用者の家族と可能な限り連絡を取る。
9. 食料、寝具、薬、紙おむつ、トイレ用品、衣類などの当面、必要な物資を確認する。

地震発生時の各事業所別の災害対応

**(昼間の場合)**

○**あったかホーム桂浜（デイサービスを含む）**の災害対応

震度５強以上

震度4～5弱の場合

**地震発生**

軽微な揺れを感じ、ライフラインに影響がない場合

強い揺れを感じてライフラインが

停止した場合

異常がないか安全確認

1. 職員は頭部を守り、揺れが収まるまで待つ。
2. 待っている間に可能な限り大きな声でご利用者に｢地震が発生しました。布団をかぶって頭を守ってください。何でもかまいませんのでつかまってください。｣などの声をかける。
3. 揺れが収まったあと、津波は早ければ30分後には到達する。
4. １階のご利用者を避難させる時間は20～25分間程度と見込まれる。
5. よって、地震によって２、３階のご利用者が車椅子ごと転倒したり、ベットから落下している場合でもそのままにしておき２、３階に勤務する職員は、各１名の保安要員を除いて、全員が１階のご利用者の避難に駆けつける。
6. ２階、３階の保安要員の各１名は、ご利用者を見回り、出血をしているご利用者にタオルを当てるなどの対応を行う。

１階では、揺れが収まり次第、

1. ご利用者の安全確認（デイサービスご利用者を含む）
2. 車椅子の転倒、椅子、ベットから落下したご利用者の保護を行い、全員を車椅子に乗せる。
3. 頭巾、ヘルメットの装着、頭巾、ヘルメットがない場合には、毛布などを頭にかけるなどの安全確保。
4. 落下物の撤去など避難の導線(階段)を確認。
5. 避難開始。20～25分程度の時間での避難が必要。
6. 避難場所は、階段を使用してとりあえず２階とする。３人の職員で担ぎ上げることや木製スロープを利用して非難する。

事務職員は、　①ブレーカーを落とす。　②ガスの火を消し、ガスの元栓を締める　　③１階の避難の応援にはいる

1. １階のご利用者全員が２階のフロアに避難が完了したことを確認する。
2. １階のトイレ、風呂場、エレベーター等の確認。
3. その後、全職員で２階、３階の利用者の保護を行う。車椅子の転倒、ベットから落下したご利用者の保護を行い、全員を車椅子に乗せる。頭巾、ヘルメットの装着、頭巾、ヘルメットがない場合には、毛布などを頭にかけるなどの安全確保。
4. ご利用者の人数及び身体状況の確認
5. 避難場所において出血等しているご利用者に応急処置を行う。その他骨折等けがをしている方の確認・応急処置を行う。
6. 念のため、３階への避難を開始する。
7. 緊急連絡網を通じて、職員の安否確認を行う。
8. ご利用者の家族と可能な限り連絡を取る。
9. 「地域密着型特定施設 花かいろう」の避難場所になっており、避難者を受け入れる。
10. 津波が完全に収まったことを確認のうえ、食料、寝具、薬、紙おむつ、トイレ用品、衣類などの当面、必要な物資を確認する。

地震発生時の各事業所別の災害対応

**(夜間の場合)**

○**あったかホーム桂浜（デイサービスを含む）**の災害対応

震度５強以上

震度4～5弱の場合

**地震発生**

軽微な揺れを感じ、ライフラインに影響がない場合

強い揺れを感じてライフラインが

停止した場合

異常がないか安全確認

1. 職員は頭部を守り、揺れが収まるまで待つ。
2. 待っている間に可能な限り大きな声でご利用者に｢地震が発生しました。布団をかぶって頭を守ってください。何でもかまいませんのでつかまってください。｣などの声をかける。
3. 揺れが収まったあと、津波は早ければ30分後には到達する。
4. １階のご利用者を避難させる時間は20～25分間程度と見込まれる。
5. よって、地震によって２階のご利用者が車椅子ごと転倒したり、ベットから落下している場合でもそのままにしておき２階、３階に勤務する職員は、全員が１階のご利用者の避難に駆けつける。

１階では、揺れが収まり次第、

1. ご利用者の安全確認
2. 車椅子の転倒、ベットから落下したご利用者の保護を行い、全員を車椅子に乗せる。
3. 頭巾、ヘルメットの装着、頭巾、ヘルメットがない場合には、毛布などを頭にかけるなどの安全確保。
4. 落下物の撤去など避難の導線(階段)を確認。
5. 避難開始。20～25分程度の時間での避難が必要。
6. 避難場所は、階段を使用してとりあえず２階とする。３人の職員で担ぎ上げることや木製スロープを利用して非難する。
7. １階のご利用者全員が２階のフロアに避難が完了したことを確認する。
8. １階のトイレ、風呂場等の確認。
9. その後、全職員で２階、３階の利用者の保護を行う。車椅子の転倒、ベットから落下したご利用者の保護を行い、全員を車椅子に乗せる。頭巾、ヘルメットの装着、頭巾、ヘルメットがない場合には、毛布などを頭にかけるなどの安全確保。
10. ご利用者の人数及び身体状況の確認
11. 出血等しているご利用者に応急処置を行う。その他骨折等けがをしている方の確認・応急処置を行う。
12. 緊急連絡網を通じて、職員の安否確認を行う。
13. ご利用者の家族と可能な限り連絡を取る。
14. 「地域密着型特定施設 花かいろう」の避難場所になっており、入り口を開錠のうえ避難者を受け入れる。
15. 津波が完全に収まったことを確認のうえ、食料、寝具、薬、紙おむつ、トイレ用品、衣類などの当面、必要な物資を確認する。

地震発生時の各事業所別の災害対応

**(昼間の場合)**

○**しあわせ村**の災害対応

震度５強以上

震度4～5弱の場合

**地震発生**

軽微な揺れを感じ、ライフラインに影響がない場合

強い揺れを感じてライフラインが

停止した場合

異常がないか安全確認

1. 職員は頭部を守り、揺れが収まるまで待つ。
2. 待っている間に可能な限り大きな声でご利用者に｢地震が発生しました。布団をかぶって頭を守ってください。何でもかまいませんのでつかまってください。｣などの声をかける。
3. 揺れが収まったあと、津波は早ければ30分後には到達する。
4. しあわせ村の2階、3階は津波浸水区域である地盤からの高さ３ｍを上回っており、特に避難を行う必要性はない。
5. 火災等の心配があることから、ブレーカーを落とす。
6. 地震によって２階、３階のご利用者が車椅子ごと転倒したり、ベットから落下していることが想定されることから直ちにご利用者に対する救護活動に入る。
7. ご利用者の人数及び身体状況の確認
8. 出血しているご利用者に応急処置を行う。その他骨折等けがをしているものの確認・応急処置を行う。
9. 念のため、３階に避難を行うこととする。

揺れが収まり次第、

1. 避難場所として、周辺の住民、高齢者、障がい者などが避難してくることから、受け入れる。
2. 職員のうち１名は、外部からの避難者に対する対応を行う。
3. 避難者は３階又は屋上で待機していただく。
4. 本部長の指示によって、避難者が安心して避難生活ができるように対応する。
5. 緊急連絡網を通じて、職員の安否確認を行う。
6. ご利用者の家族と可能な限り連絡を取る。
7. 津波が完全に収まったことを確認のうえ、食料、寝具、薬、紙おむつ、トイレ用品、衣類などの当面、必要な物資を確認する。

地震発生時の各事業所別の災害対応

**(夜間の場合)**

○**しあわせ村**の災害対応

震度５強以上

震度4～5弱の場合

**地震発生**

軽微な揺れを感じ、ライフラインに影響がない場合

強い揺れを感じてライフラインが

停止した場合

異常がないか安全確認

1. 職員は頭部を守り、揺れが収まるまで待つ。
2. 待っている間に可能な限り大きな声でご利用者に｢地震が発生しました。布団をかぶって頭を守ってください。何でもかまいませんのでつかまってください。｣などの声をかける。
3. 揺れが収まったあと、津波は早ければ30分後には到達する。
4. しあわせ村の2階、3階は津波浸水区域である地盤からの高さ３ｍを上回っており、特に避難を行う必要性はない。
5. 火災等の心配があることから、ブレーカーを落とす。
6. 地震によって２階、３階のご利用者が車椅子ごと転倒したり、ベットから落下していることが想定されることから直ちにご利用者に対する救護活動に入る。
7. ご利用者の人数及び身体状況の確認
8. 出血等しているご利用者に応急処置を行う。その他骨折等けがをしているものの確認・応急処置を行う。
9. 念のため、３階に避難を行うこととする。

揺れが収まり次第、

1. 避難場所として、周辺の住民、高齢者、障がい者などが避難してくることから、入り口ガラス戸の開錠を行い受け入れる。
2. 避難者は３階又は屋上で待機していただく。
3. 本部長の指示によって、避難者が安心して避難生活ができるように対応する。
4. 緊急連絡網を通じて、職員の安否確認を行う。
5. ご利用者の家族と可能な限り連絡を取る。
6. 津波が完全に収まったことを確認のうえ、食料、寝具、薬、紙おむつ、トイレ用品、衣類などの当面、必要な物資を確認する。